



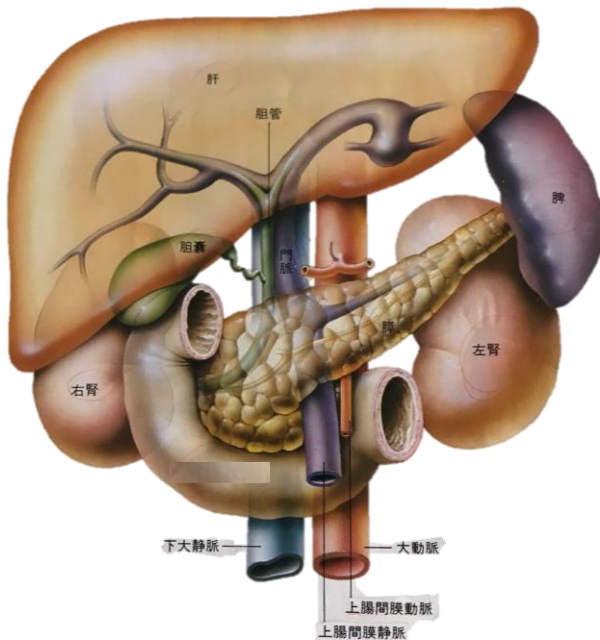
腹部超音波検査について

腹部超音波ってどんな検査？

超音波検査は、エコー検査とも呼ばれ、被曝の心配がありません。腹部にゼリーを塗り、超音波を当てて、臓器に当たって跳ね返ってきた音を画像で表します。検査中は、観察しやすくするために体を押ししたり、体の向きを変えたりします。



こんな臓器を見ています



臓器の全体像(形・大きさ)やポリープ・石・腫瘍などが
ないか、観察していきます。

臓器は、呼吸によって動いています。
臓器を観察しながら画像を記録しますので、「息を吸って止めて下さい」、「息を楽にして下さい」などとお声掛けしながら、検査を進めていきます。

出典：腹部エコーのABC 日本医師会編

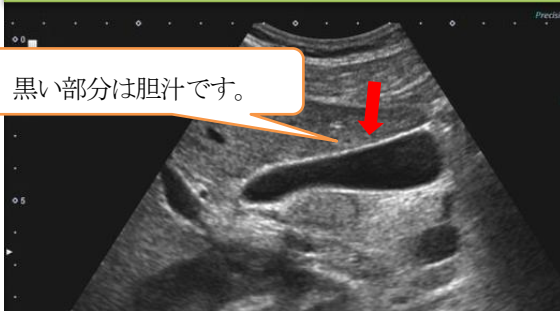
吸ったり吐いたりするのはどうして必要なの？

息を吸うことによって、横隔膜が下がり、臓器の位置が移動します。検査では、お腹を膨らませて息を吸い込む腹式呼吸をお願いすることが多いのですが、検査を受ける方の状態によっては、別の方法をお願いすることもあります。

食事を抜いた状態で検査するのはなぜ？

食事をすると、消化管内のガスが増えて目的の臓器が見つらなくなります。また、空腹時には胆のうに『胆汁』という液が充満しているのですが、食事をすると胆汁は排出されて、胆のうがしぼんでしまいます。そのため、病気が隠れて、発見が難しくなってしまいます。

絶食時の胆のう



食後の胆のう



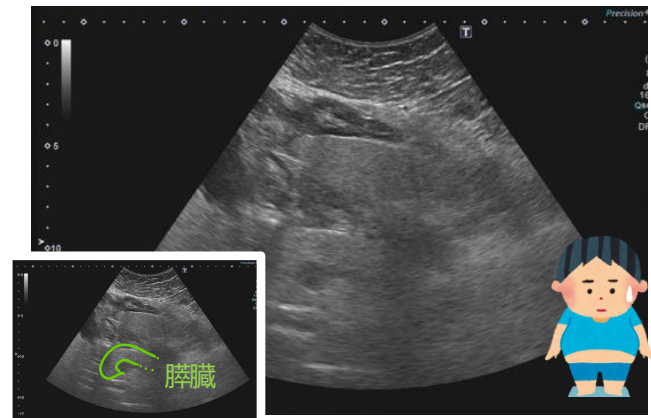
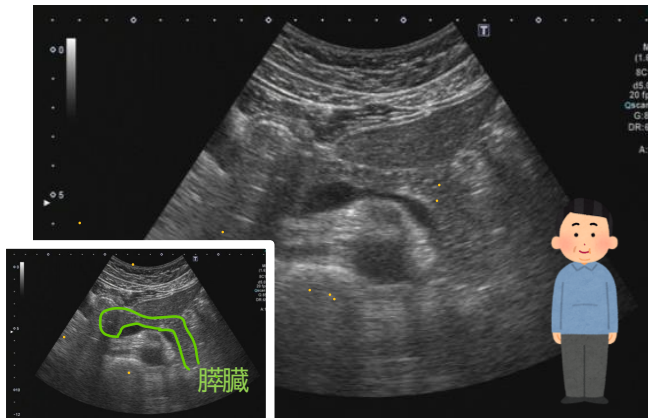
検査中に体の向きを変えるのはなぜ？

超音波の特性として、空気・骨・消化管ガスにぶつくと、そこからまっすぐに進めなくなったり反射を起こしたりして、見えにくくなってしまいます。そのため、体の向きを変えるなどして、影響を少なくしています。



太っているとエコーで見えにくいって本当？

肥満の方では、超音波がからだの奥まで届きにくく、見えにくいことがあります。圧迫することで、脂肪を通過するエコーの距離を縮めたり、体位変換をお願いしたりしながら観察します。



健康診断のご予約やご相談は、Tel.03-3668-6806へご連絡ください。



今後もニュースレターを発行し、皆様の健康管理に少しでも参考になればと思います。ぜひ皆様からのご意見、ご感想をお寄せください。今後もこのニュースレターやホームページ等を通じ、役立つ情報を発信してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

公益財団法人早期胃癌検診協会 事務局
Tel.03-3668-6803/E-mail:mail@soiken.or.jp